

第1回各務原市地域公共交通会議 議事録

日 時	平成25年11月25日(月) 10:00~11:45
場 所	各務原市役所 産業文化センター 8階第1特別会議室
委 員 (敬称略)	<p>【出席】</p> <p>武藤 行儀 (岐阜乗合自動車株式会社)          桐山 茂男 (株式会社岐阜バスコミュニティ)          服部 総明 (名古屋鉄道株式会社)          澤井 利之 (岐阜県タクシー協会) (代理:福永吉一)          山田 芳喜 (社団法人岐阜県バス協会)          原 重雄 (各務原市自治会連合会会長)          加藤 克彦 (各務原市自治会連合会副会長)          杉山 禎一 (各務原市自治会連合会副会長)          川瀬 兼彦 (各務原市自治会連合会副会長)          木村 治史 (中部運輸局岐阜運輸支局)          白兼 章 (岐阜バスコミュニティ労働組合)          春日井 元 (岐阜国道事務所)          今瀬 千秋 (岐阜土木事務所)          渡辺 清 (各務原警察署)          松田 勲 (岐阜県都市建築部公共交通課長) (代理:谷口哲一)          杉山 元則 (各務原市議会)          柘植 藤和 (各務原商工会議所)          倉内 文孝 (岐阜大学)          磯谷 均 (各務原市副市長)</p> <p>【欠席】</p> <p>山下 善則 (東海旅客鉄道株式会社)</p> <p>【事務局】</p> <p>各務原市 産業文化部商工振興課</p>

■委員からの主な指摘事項と対応について

主な質問・指摘事項	回答・対応方針
<p>〈4 報告〉各務原市の概況と公共交通の現状、市民ニーズの把握について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>資料9の7ページの名古屋からの通勤者の数がおかしい。修正してほしい。</li> <li>県としては、鉄道とふれあいバスの接続、高齢化が進む団地の移動手段確保が課題であると考えている。課題の</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>修正する</li> <li>課題の表題を整理する</li> </ul>

<p>整理で、文章でそのような内容が書かれているが、表題でわかりやすく示してほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>長大路線であるために、利用者が限られているのではないか。市内を6地区（①各務・八木山、②緑苑・鶉沼1・3、③鶉沼2・陵南・稲羽東、④稲羽西・川島、⑤中央・蘇原、⑥尾崎・那加1・2・3）に分け、公共交通結節点として拠点を設け、ふれあいバスを運行してはどうか。</li> <li>川島では、合併後も市外を買物等の生活拠点としている方が多いが、市内での買物をしてもらった方がいいのではないか。</li> <li>市民アンケートについて、地区別にみると、回収数が少ない地区もあるが、サンプル数として、大丈夫なのか。連携計画策定後も地域住民の意向を確認するシステムづくりのために、PDCAサイクルを考えてほしい。また、どのような目的の移動に対応するかにより、費用負担の考えかたが変わってくると思う。</li> <li>買物の中心がイオンになってしまっている。商店街の活性化についてふれあいバスに一役かってほしい。</li> <li>先日、蘇原中央通り商店街の活性化に関するまちづくりミーティングに参加した際、医療施設や商店街をとおって、買物弱者へ対応ができるようなふれあいバスにしてほしいという意見があった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>再編方針検討にあたり、参考とする</li> <li>橋も完成したこともあり、川島から市内への利便性を向上させ、那加地区へのアクセスをよくしたい。</li> <li>アンケートのみならず各地域での住民懇談会や乗降調査等を実施し様々な方面から市民の意見を拾いたいと考えている。</li> <li>今回の見直しがゴールではなく、定期的に見直していきたいと考える。</li> <li>医療機関や商店街・地域のスーパーを利用しやすいようなバスの運行を考えていきたい。</li> </ul>
主な質問・指摘事項	回答・対応方針
<p>〈4 報告〉各務原市の概況と公共交通の現状、市民ニーズの把握について 続き</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デマンド交通の検討は行うか。</li> <li>会議の参加にあたり、ふれあいバスに乗車した。細やかに地域を回っているとわかった。しかし、利用者の少なさが目についた。また、身近な人の意見だと、病院や駅にバスで行きたいという意見が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小型車を使ったデマンド運行も検討したい。利用者が少なく、バスによる効率的な運行ができない地区ではデマンド交通への切り替えの可能性がある。今回の協議会では、タクシー協会にも入っていただいたので、今後協議していきたい。</li> </ul>
主な意見	
<p>〈5 委員の皆様から一言〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>6地区ごとの運行を行ってほしい。また、効率的な運行のために値上げも考えてもいいのではないか。</li> <li>尾崎に住んでいる。市長に対する意見でもふれあいバスについて取り上げられていたので改善に力を入れていきたい。那加駅発の名鉄との乗り継ぎが悪いので、名鉄と乗り継ぎ利便性の向上や、交通弱者の</li> <li>公共施設への利便性を高めてほしい。また、居住地が駅から遠い方のために補助制度がついたICカードやプリペイドカードが使えるようになってほしい。岐阜バスとの値段の格差をなくしてほしい。利用時間も拡大するといひ。</li> </ul>	

- 東山団地や東部団地、尾崎団地等の交通不便地区への対応に力を入れてほしい。高齢者の意見でも、自分で動けるうちは自分で移動したいという意見が多い。
- 川島在住。せっかく各務原市と合併したので、各務原市内へ目を向けたい。また、川島には観光施設が多いため、観光施設への集客にも力を入れてほしい。また、高校生が各務原市内の学校に多く通っている。雨の日の通学にふれあいバスが使えるといい。
- 人口カバー率が95%という話があったが、実際の利用者数が少ないということは、乗りにくいふれあいバスになっているということだと思う。広く浅くだと、なかなか利用しづらい。利用し、満足できる公共交通にしてほしい。
- 岐南町では「子育てタクシー」、各務原市でも「介護タクシー」を運行していると聞いた。様々な方法を検討してほしい。
- 利用者ニーズに合ったふれあいバスの運行をしてほしい。乗車人数だけみれば、特別利用者が少ないわけではないと思う。知らないことが利用しない理由の多くを占めていると思う。わかりやすく、乗りやすい情報提供をお願いしたい。バスルート図にも路線バスの情報をのせてはどうか。東海中央病院まで母が利用した際に席に座れずに困った。高齢者により利用していただくには、多くの人が座席に座れるバス車両がいるのではないかと。団地内では、坂が多く、高齢者が立ってバスを利用することは難しいと思う。
- ダイヤの見直しも必要だと思う。遅延が多発する箇所があり、乗り継ぎに支障をきたしている。
- 魅力あるバス事業にしてほしい。車での移動が多いため、公共交通の乗り方がわからない子どもが多い。子どもへの公共交通にかんする情報提供や教育にも力を入れてはどうか。コミュニティバスは小回りが利く乗り物であるので、時間帯によって目的地を変えてもいいのではないかと。
- 鉄道との乗り継ぎ利便性向上に力を入れてほしい。現在、100円で利用できるが、鉄道や路線バスに乗り継ぐとお金がかかってしまう。駅近くに住むコンパクトシティ実現に向けてもふれあいバスについて根本的に考えたほうがいい。
- 高齢化に伴う高齢者の交通死亡事故の増加が心配。高齢者が被害者にも加害者にもなっている。このため、免許返納後の高齢者の移動手段としてのふれあいバスの役割に期待している。安全で円滑なふれあいバスの運行のお手伝いをしていきたい。
- 持続可能な運行システムにしてほしい。乗って納得、納税して納得してもらえるようなふれあいバスにしてほしい。柔軟な見直しのために、バス停の変更もあると思うが、その際は早めに相談してほしい。
- 民間バス路線もふれあいバスもWIN-WINとなるような計画してほしい。
- 国道21号にもふれあいバスがよく走っているなという印象。今後ともよろしくお願ひしたい。また、運行経費については、市としてはどれくらいの負担まで可能なのか。検討してほしい。
- 今年度から法定協議会になったということだが、法定協議会はバスのみではなく鉄道等を含めた全モードを協議できる即効性のある会議である。ぜひ利用促進事業に関する補助金制度も活用してほしい。

## 総 括

(岐阜大学 倉内委員)

- 1点目として、平均乗車員数を見ると、比較的利用されているようだが、収支率が悪い。短距離しか乗っていないのではないかと。サービスに対して利用料金が安すぎるのが気になる。カバー率が高くなっているために長大路線となっていることが気になる。行きたい場所と運行時間帯があっているか、確認し

てほしい。まだまだよくなると思うが、交通は目的を達成するために利用する手段であるため、コントロールが難しい。

- 2点目として、まちづくりと一体となった計画とするため、関連上位計画と連携して考えなくてはいけない。
- 3点目として、路線を切るためには、サービス提供の在り方に関する基準について議論しなくてはいけない。ターゲットに合わせて運行内容を変えなくてはいけないため、地元の人と一緒に考えていくことが大切である。